

第26回
FDフォーラム
報告集

第11分科会

新しい生活様式における保育士養成 —演習科目「子育て支援」を中心に—

報告者

新川 泰弘 氏 関西福祉科学大学 教育学部 教授

榎本 祐子 氏 びわこ学院大学 教育福祉学部 専任講師

武田 洋子 氏 東京家政大学 家政学部 准教授

西井 典子 氏 大阪樟蔭女子大学 児童教育学部 専任講師

コーディネーター

安田 誠人 氏 大谷大学 教育学部 教授

【研究】

P 1～ 講演1. 地域子育て支援拠点におけるソーシャルワーク 新川 泰弘 氏

P 5～ 講演2. 「子育て支援」の要となる利用者支援事業の課題 榎本 祐子 氏

P12～ 講演3. 継続利用を促す支援に関する検討 武田 洋子 氏

P16～ 講演4. 保育士が行う「子育て支援」とは？ 西井 典子 氏

【教育】

P21～ 講演5. 新しい生活様式における「演習科目：子育て支援」 新川 泰弘 氏

P25～ 講演6. コロナ禍における講義の実際と、理論に基づいた「子育て支援」の演習
榎本 祐子 氏

P31～ 講演7. 新しい生活様式における「演習科目：子育て支援」 武田 洋子 氏

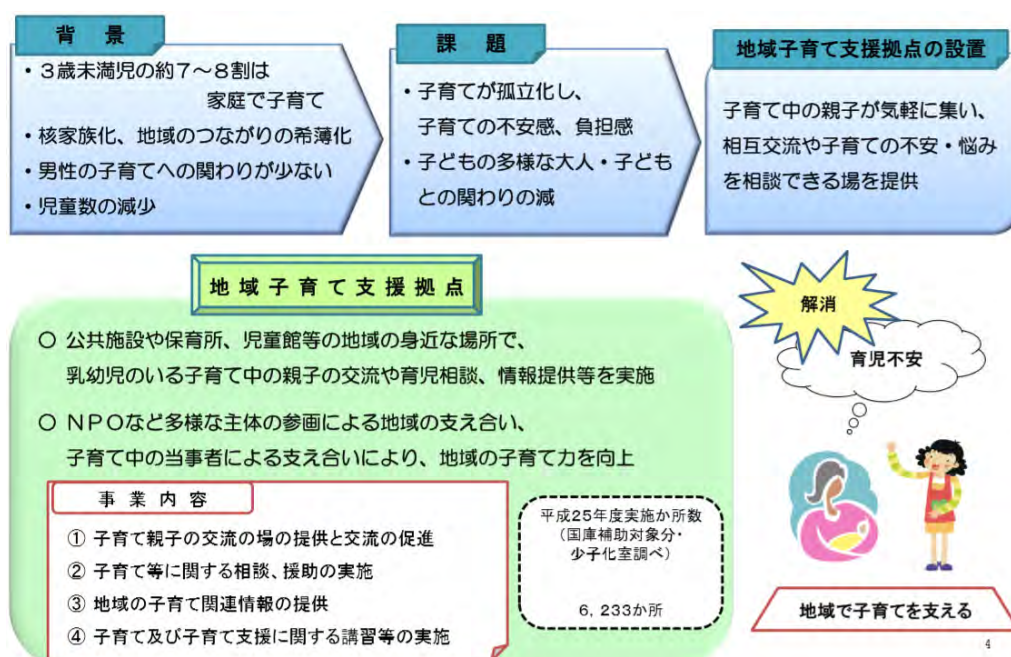
P34～ 講演8. 実践につながる演習をめざして—新しい授業方式の中での課題—
西井 典子 氏

＜テーマ＞「新しい生活様式における保育士養成―演習科目「子育て支援」を中心に―」

①地域子育て支援拠点におけるソーシャルワーク

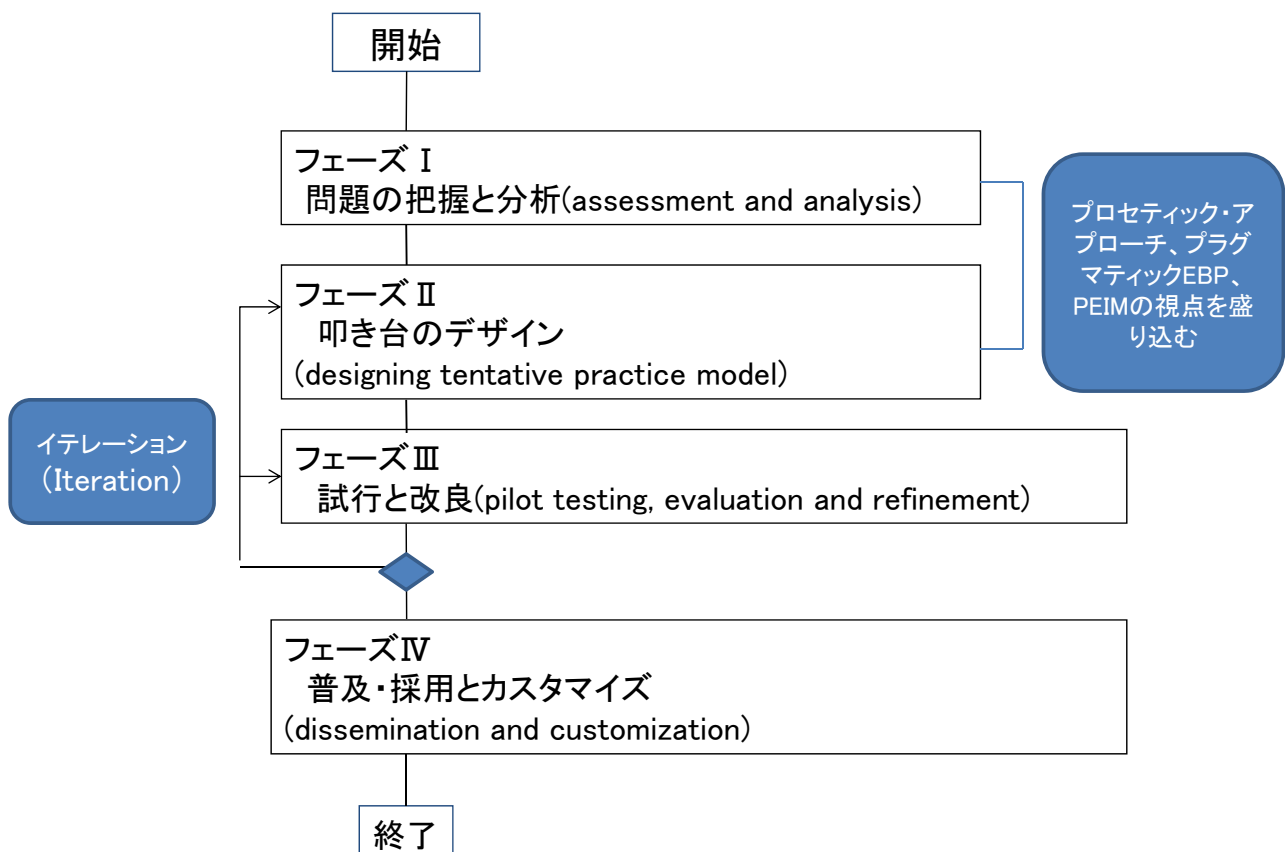
関西福祉科学大学
新川泰弘

地域子育て支援拠点事業の背景、課題、事業目的と内容
出典：厚生労働省



地域子育て支援拠点における ソーシャルワークの必要性あるいは重要性

- 地域子育て支援拠点基本4事業
 - (1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
 - (2) 子育て等に関する相談, 援助の実施
 - (3) 地域の子育て関連情報の提供
 - (4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- 一方で、地域子育て支援拠点においてソーシャルワークが試行されている。
- そして、地域子育て支援拠点事業におけるソーシャルワークの必要性あるいは重要性は、柏女ほか(1999)、才村(2005)、金子(2007)、山縣(2011)、橋本(2011)、芝野(2019)などにより、すでに指摘されている。



芝野(2015)のM-D&Dによるソーシャルワーク実践モデル開発研究のプロセス

芝野(2015)のM-D&Dに基づいた
地域子育て支援拠点利用者調査(新川, 2020)

- 子育て支援におけるソーシャルワークのプランニングをするにあたって必要な点
- ①利用者の個別ニーズを的確に把握して、求めるサービスや資源へと確実につなぐコーディネート
- ②時系列的にケースの進捗管理を行い、継続的かつ計画的に支援していくケースマネジメント
- ③地域における様々なネットワークが形成されるように意図的に子育てネットワークを作っていくこと

芝野(2015)のM-D&Dに基づいた拠点サービス
利用効果測定調査研究結果(新川, 2016)

- 地域子育て支援拠点利用期間の短い利用者よりも長い利用者の方が、「子育て仲間作り」と「子どもへの関わり方」においてより効果がある
- 子どもと過ごす時間を楽しいと感じていた利用者よりもそうでない利用者の方が、「子育て仲間作り」と「親子遊び」においてより効果がある

芝野(2015)のM-D&Dに基づいた拠点利用者の子育て環境と利用者ニーズとの関連性についての調査研究結果(新川, 2018)

- 配慮を必要とする子育て家庭へのリーチアウトに対する利用者ニーズは子育てについて語り合う子育て仲間が少ない方が低く、
- 間接的な親子支援に対する利用者ニーズにおいても子育てについて家族と語り合ったり、地域社会において子育ての支援を受けたりすることが少ない方が低い。
- そのため、潜在ニーズについて考えていく必要があり、こうした潜在ニーズを考えれば、ニーズが低いからといって決して問題がないというわけではなく、むしろ問題は深刻。
- それゆえに、地域子育て支援拠点に求められている利用者支援や地域支援のニーズに対応していくため、利用者ニーズを個別に把握して、サービスに的確につないでいく子育て支援ソーシャルワークはやはり重要

文献

- 橋本真紀(2011)「保育相談支援の基本」柏女霊峰・橋本真紀編『保育相談支援』ミネルヴァ書房, 28-43.
- 金子恵美(2007)「地域子育て支援拠点におけるソーシャルワーク活動ー地域子育て支援センター全国調査から」『日本社会事業大学研究紀要』54, 129-150.
- 柏女霊峰・山本真美・尾木まりほか(1999)「子ども家庭サービスの供給システムのあり方に関する研究(3)ー保育所実施型地域子育て支援センターの運営及び相談活動分析」『日本子ども家庭総合研究所紀要』36, 29-57.
- 新川泰弘(2016)『地域子育て支援拠点におけるファミリーソーシャルワークの学びと省察』相川書房.
- 新川泰弘(2018)「地域子育て支援拠点利用者の子育て環境と利用者ニーズとの関連性ーソーシャルワークの視点からー」『子ども家庭福祉学』18, 1-13.
- 新川泰弘(2020)「子育て支援ソーシャルワークのためのプログラム開発」『ソーシャルワーク研究』45(4), 37-44.
- 才村純(2005)『子ども虐待ソーシャルワーク論ー制度と実践への考察』有斐閣.
- 芝野松次郎(2015)『ソーシャルワーク実践モデルのD & DープラグマティックE BPのためのM-D & D』, 有斐閣.
- 芝野松次郎(2019)「子育て支援の課題と展望」才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治編『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房, 158-164.
- 山縣文治(2011)「子ども家庭福祉とソーシャルワーク」『ソーシャルワーク学会誌』21, 1-13.

＜テーマ＞「新しい生活様式における保育士養成－演習科目「子育て支援」を中心に－」

講演 2

②「子育て支援」の要となる利用者支援事業の課題

びわこ学院大学教育福祉学部

榎本 祐子

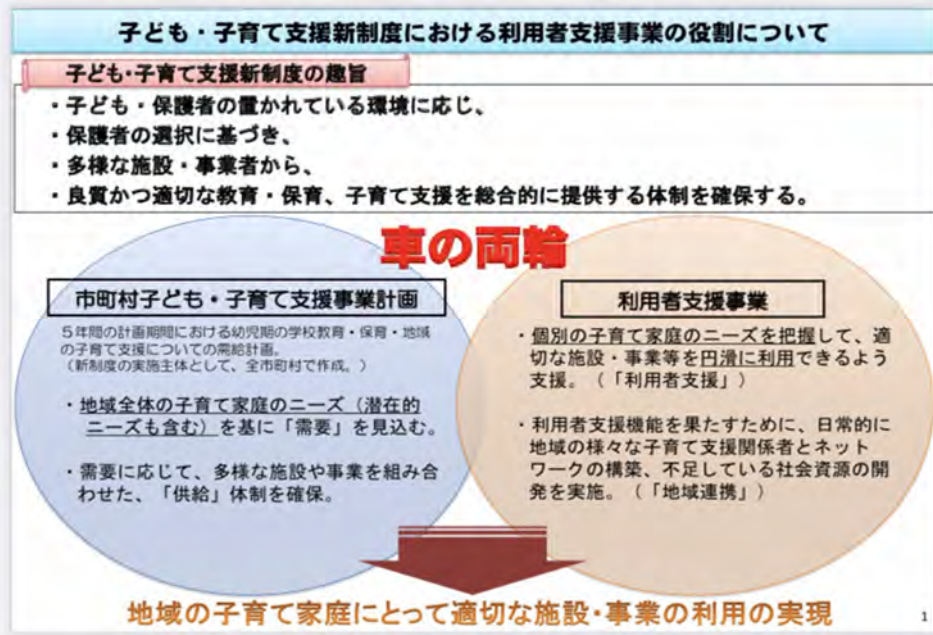
榎本（旧姓：平田）祐子 略歴

- 1983年 大阪府高槻市生まれ
- 博士（人間福祉）
- **主な研究：利用者支援事業**
- 2013年4月～滋賀大学で5年間
保育実習担当の特任講師
- 2019年4月～
びわこ学院大学教育福祉学部 講師



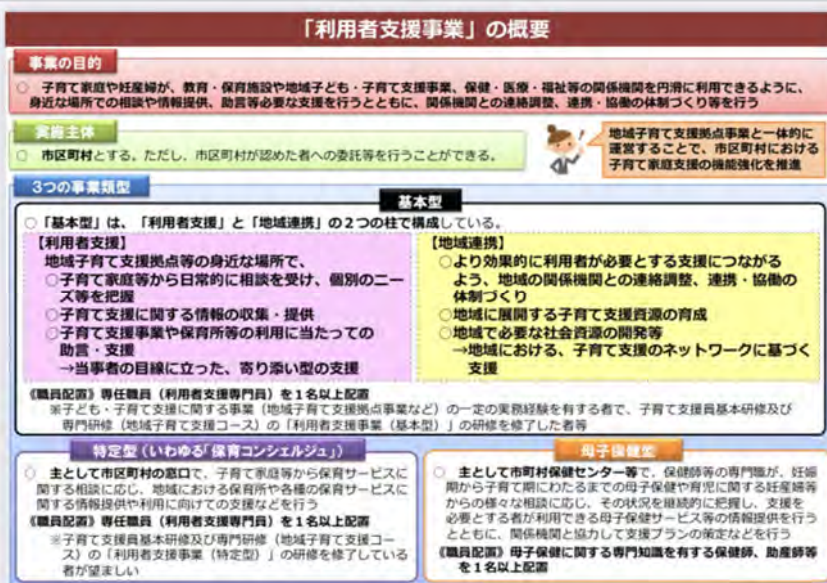
4歳の男の子と2歳の女の子を子育て中です。私生活では日々保育士さんに助けられています。

講演2 目的 利用者支援事業の課題を整理する



利用者支援事業は2015（平成27）年から本格的に実施されている。

利用者支援事業の概要（厚生労働省HPにより）



・利用者支援事業といっても、3つの事業類型がある。

・3つの形態があるのはもともと3種類のサービスや事業を1つの事業としてまとめたから！

基本型・・・子育て支援総合コーディネート事業

特定型・・・保育コンシェルジュ（横浜市）

母子保健型・・・ネウボラ（フィンランド）

とくに基本型と母子保健型の役割の違いがわかりにくい。

母子保健型のモデルとなっているフィンランドのネウボラ



フィンランドのネウボラは妊娠がわかってからの妊婦健診、産後健診、乳幼児健診および予防接種まで1つの場所で包括的に、**担当のネウボラナース**（保健師または助産師）によって支援する。**1回約30～1時間**、単なる健診等ではなく、家族によりそった**「対話」**が重視されている。

利用者支援事業の実施状況

	基本型	特定型	母子保健型
平成26年度	160 (49.5%)	163 (50.5%)	
平成27年度	344 (37.0%)	291 (31.3%)	295 (31.7%)
平成28年度	471 (32.6%)	341 (23.6%)	633 (43.8%)
平成29年度	611 (32.2%)	371 (19.6%)	915 (48.2%)
平成30年度	720 (31.6%)	375 (16.5%)	1183 (51.9%)
令和元年度	805 (31.9%)	389 (15.4%)	1330 (52.7%)

出典：榎本，2021（印刷中）

3 類型の中では圧倒的に母子保健型のびている！

国の資料による「基本型」「母子保健型」の整理

	主な実施場所	必要な資格	特徴
基本型	地域子育て支援拠点など親子にとって身近な場所	子育て支援員基本研修及び専門研修（地域子育て支援コース）の利用者支援事業（基本型）の研修を修了したものなど。	当事者目線で相談支援を行い、子育て支援に係る施設や事業等の利用につなげる。 ソーシャルワーク的なもの。
母子保健型	市町村保健センター	母子保健に関する専門知識を有する保健師、助産師、看護師、ソーシャルワーカー（社会福祉士）	保健師等の専門性を活かした相談支援を行い、母子保健を中心としたネットワーク、医療機関、療育機関等につなげる 継続的な把握、支援プランの策定を実施

- ・基本型は利用者支援事業ガイドラインに基本的な事業内容が示されているが、**母子保健型についてはまだこのようなガイドラインが示されていない。**
- ・基本型が非専門職、母子保健型が専門職という位置づけであるが、ガイドラインに示された基本型の内容を実施するには高度なソーシャルワークの専門的知識が必要。
- ・母子保健型の資格の範囲が広すぎてどのような専門性が必要なのか不明。
- ・ワンストップ拠点（子育て世代包括支援センター）を整備することが必要。

利用者支援事業の「基本型」「特定型」「母子保健型」の主な研究

基本型	理論的枠組みに関する研究	平田（2014）平田（2015）新川（2020）
	実践と課題	榎本（2016）平田（2017）平田・平沼（2018）金山・中條・金山他（2019）西岡（2019）
	本事業の実態に関する全国調査	NPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2020）
	本事業の新たな機能に関する研究	徳広（2016）徳広（2017）
母子保健型	フィンランドのネウボラの紹介と我が国への導入の際の提言	木脇・太田（2014）高橋（2015）榎本・矢田・矢田（2016）木脇・太田（2016）吉川・尾崎（2016）木脇（2017）ハクリネン（2018）横山（2020）
	自治体で実施されている日本版ネウボラの紹介	木内（2017）福永・横山（2018）畠山・朝比奈・大崎など（2018）岸田・横山（2018）天野・横山（2020）
	フィンランドのネウボラの実体験	コッコ（2018）矢田・矢田（2020）
	ネウボラ以外の理論的枠組みに関する研究	中村（2016）
特定型	各市町村での実践と課題	片山・矢野・佐藤（2017）

出典：榎本，2021（印刷中）

主に基本型は社会福祉分野の研究者、母子保健型は母子保健分野の研究者によって研究されている。母子保健型のほとんどがネウボラに関する研究である。

基本型の研究の概要

利用者支援事業基本型のあり方に関する研究

- 利用者支援事業は子育て家庭に対する予防的社会福祉としてすべての家庭に対し実施する必要がある。（平田，2014など）
- 利用者支援事業は**ソーシャルワーク実践であるべき**（平田，2015など）であり、「子育て支援としてソーシャルワークを実施していくための**具体的な実践プログラムの開発が必要**」（新川，2020）。
- 利用者支援事業基本型の課題
 - ①権限の乏しさ
 - ②地域子育て支援拠点事業の職員との役割分担
 - ③事業の見通しの見えなさ（認知されていない、事業名称や体形が変わる）
 - ④他の専門職との関係

母子保健型の研究の概要

フィンランドのネウボラの紹介

- フィンランドにいき、ネウボラを視察し、そのすばらしいシステムについて紹介している論文が多数ある。

日本版ネウボラの紹介

- 我が国の自治体で取り入れた「日本版ネウボラ」の紹介。
👉実態は保健事業をつなげて「ネウボラ」としているだけでまったく別のものになっている！（横山，2020）「日本ではハイリスク家庭でない限り地区担当保健師による継続的な支援はされていない。」（横山，2020）

- 中村（2016）は、**母子保健型も母子保健を中心としたネットワーク、継続的な把握、支援プランの策定を実施など、求められているのはソーシャルワークの専門性であると指摘している。**

今後の課題

- 今後の課題
- ①子育て支援にソーシャルワークは絶対に必要。それを踏まえて利用者支援事業を実施していくための子育て支援ソーシャルワーク（新川，2020）の在り方についてさらに研究を進めていく必要がある。
- ②基本型も母子保健型も目指している方向性は非常に似ている（すべての家庭に予防的に支援したい）。類型を1つにまとめて両類型で活躍しようとしている利用者支援専門員が役割分担したほうが効率がいい。
- ③ネウボラは素晴らしい、でも日本のシステムにはなじまないところもあるのが事実。名前よりも中身が重要、なのに名前だけが入り入れられている・・・。

問題が顕在化してからでは遅い。

身近に頼ることができる人が減っている現代の子育て世代にとって**担当者が決まっています、定期的に対話できるという形での利用者支援事業の充実**は喫緊の課題である。

引用・参考文献

- 天野由美子・横山美江（2020）「島田市版ネウボラの構築」『保健師ジャーナル』76（4），400-405.
- 榎本祐子（2016）「利用者支援事業基本型の実践と課題—東近江市子育てコンシェルジュ事業の取り組みから—」『滋賀大学教育学部紀要』66，55-67.
- 榎本祐子・矢田匠・矢田明恵（2016）「フィンランドのネウボラの視察から見たわが国の利用者支援事業の課題—ケースの視察及び利用者インタビューから—」『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』13，49-56.
- 福永淑江・横山美江（2018）「ネウボラのエッセンスを取り入れた地区担当保健師による継続支援システムの構築」『保健師ジャーナル』74（6），484-489.
- 島山典子・朝比奈青里花・大崎和江・芝岡美枝・田村美智・福島富士子・横山美江（2018）「地区担当保健師制の強化—切れ目のない支援の実現へ—」『保健師ジャーナル』74（6），478-483.
- 平田祐子（2014）「子ども・子育て支援新制度における利用者支援事業の実施に向けての課題—ケースマネジメントの理論的枠組みを用いて—」『滋賀大学教育学部紀要』64，53-62.
- 平田祐子（2015）『ケースマネジメントによる子育て支援コーディネート——効果的なサービス提供のために』ミネルヴァ書房.
- 平田祐子・芝野松次郎・小野セレスタ摩耶（2012）「子育て支援総合コーディネーターの「力量」に関する研究」『子ども家庭福祉学』12，93-105.
- 平田美智子（2018）「地域子育て支援拠点における利用者支援事業—関東地域の地域子育て支援拠点へのアンケート調査から—」『和泉短期大学研究紀要』38，11-18.
- 平田美智子・平沼昌子（2018）「利用者支援事業の成果と課題—地域子育て支援拠点へのインタビュー調査から—」『和泉短期大学研究紀要』39，1-10.
- 金山美和子・中條美奈子・金山茉莉花・山縣知子・下村篤子（2019）「地域子育て支援拠点事業との一体的な運営による利用者支援事業の検討—地域の社会資源の開発に着目して—」『長野県短期大学紀要』73，77-86.
- 片山知子・矢野由佳子・佐藤美紀（2018）『相模原市における利用者支援事業に関する基礎調査
- 柏女雲峰監修・著 橋本真紀編著（2015）『子ども・子育て支援新制度利用者支援事業の手引き』第一法規.
- 岸田久世・横山美江（2018）「地区担当保健師の活動強化と妊娠からの子育てまでの連携支援—豊中市の取り組み—」『保健師ジャーナル』74（6），472-477.
- 木内恵美（2017）「文京区版ネウボラ事業における包括的母子支援」『保健師ジャーナル』73（4），313-319.
- 木脇奈智子（2017）「フィンランド・ネウボラの理念と現状—ハメルリンナのネウボラナース養成校の現地調査から—」『藤女子大学QOL研究所紀要』12，5-12.
- 木脇奈智子・太田由加里（2014）「多様化する子育て支援の現状と課題：第3報—フィンランドの家族支援「ネウヴォラ」に着目して—」『藤女子大学QOL研究所紀要』9，35-43.
- 木脇奈智子・太田由加里（2016）「フィンランドの家族支援—ロヴァニエミ市におけるネウヴォラとチャイルドデイケアセンターの現地調査—」『藤女子大学QOL研究所紀要』11，5-16.
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長（2014）「利用者支援事業の実施について」雇発0529第16号.
- マルクス・コッコ 翻訳：堀内都喜子（2018）「実体験から語るフィンランドのネウボラ—フィンランドのネウボラと日本の母子保健の両方を利用した体験から—」『保健師ジャーナル』74（6），464-467.

引用・参考文献

- 中村強士（2016）「利用者支援事業における保育ソーシャルワークの可能性—母子保健型を中心に—」『あいち保育研究所』7, 116-128.
- 新川泰弘（2020）「子育て支援ソーシャルワークのためのプログラム開発」『ソーシャルワーク研究』45, 37-44.
- 西岡敦子（2019）「地域子育て支援拠点および利用者支援事業」『外来小児科』22(2), 171-176.
- NPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2020）「地域子育て支援拠点及び利用者支援事業（基本型）における利用者の個別ニーズの把握・相談対応状況に関する調査研究」報告書
- 岡村重夫（1974）『地域福祉論』光生館.
- 佐藤拓代（2018）「子育て世代包括支援センターの動向と母子保健と関わり」『保健師ジャーナル』74(6), 468-471.
- 芝野松次郎（2019）「子育て支援の課題と展望」才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治（編）『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房 158-164.
- 芝野松次郎・小野セレス・摩耶・平田祐子（2013）『ソーシャルワークとしての子育て支援コーディネート』関西学院大学出版会.
- 高橋睦子（2015）『ネウボラ フィンランドの出産・子育て支援』かもがわ出版.
- 徳広圭子（2017）「地域子育て支援拠点における就労支援に関する研究（2）支援者の意識を中心に」『ソーシャルワークぎふ』22, 3-15.
- 徳広圭子（2016）「地域子育て支援拠点における「働きたいママ」への就労支援に関する研究—利用者支援事業の可能性の検討を中心に」48, 1-8.
- 東京都社会福祉協議会（2014）『区市町村による利用者支援事業の実施に向けて』共立速記印刷.
- トゥオヴィ・ハクリネン 翻訳：横山美江（2018）「フィンランドの妊産婦・子どもネウボラにおける活動」『保健師ジャーナル』74(6), 458-463.
- 矢田匠・矢田明恵（2020）「利用者からみるフィンランドの教育福祉—ネウボラとパイヴァコに着目して—」『チャイルドヘルス』23(4), 50-53.
- 横山美江（2018）「フィンランドのネウボラで活躍している保健師から学ぶ子育て世代包括支援センターの在り方」『保健師ジャーナル』74(6), 452-457.
- 横山美江（2020）「日本でつくるネウボラに必須のシステム—ポピュレーションアプローチで防ぐ児童虐待」『保健師ジャーナル』76(4), 316-321.
- 横山美江・Tuovi Hakulinen-vitanen（2015）「フィンランドの母子保健システムとネウボラ」『保健師ジャーナル』71(7), 598-604.
- 吉川はる奈・尾崎啓子（2016）「フィンランド・ネウボラにみる子どもと家族を支えるしくみの検討—支援のしくみと利用者の意識の特徴—」『埼玉大学教育学部教育実践総合センター紀要』15, 129-134.

詳しい内容は榎本祐子（印刷中）「利用者支援事業3類型の研究の動向と課題—とくに基本型と母子保健型の関係性に着目して—」『びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部研究紀要』12, 27-35に掲載予定です。

ご清聴ありがとうございました。 榎本祐子 連絡先emoto@newton.ac.jp

研究3

継続利用を促す支援に関する検討

東京家政大学

武田(六角) 洋子



実験的協働実践研究

- ・ 子育て支援を長年実践してきた非営利組織であるA機関での実践。
- ・ 通常の支援現場ではあり得ない条件下(多分に理想的)での実践を通して、
 - ①利用者への支援の最大化を目指す。
 - ②子育て支援上の問題や方法について、実践上得た知見を世の中の子育て支援実践関係者へ提起する。

実践の中で…

「支援者としては支援の場を利用して欲しい人が、支援の場を利用しにくいことへの手立てが必要」

①利用しない(利用できない)人への支援 ②継続利用とならない人への支援

調査フィールド（A機関）について

本日の発表では、親子の継続利用を促す支援を検討した研究をとりあげる。

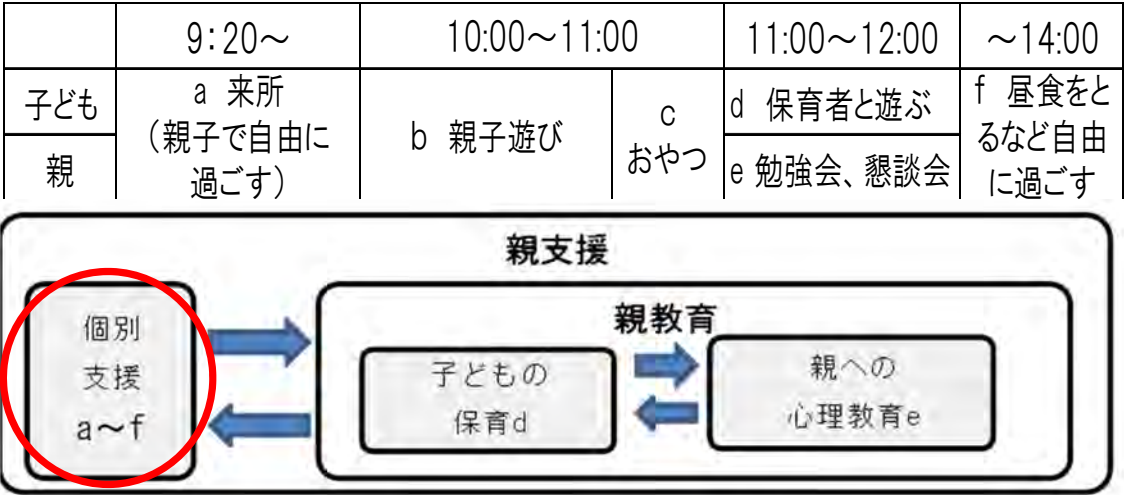
【A機関の歴史】 親育ち、子育て、親子関係の育ちに着目した子育て支援を行ってきた機関。
 （健やかな子どもの育ちのために親を育てる。）

【支援者の特徴】 複数の専門職で構成されている。

【利用経路】 ①近隣に住み、A機関の情報を得て自主的に利用する。
 ②地域の専門機関他から紹介されてくる。

【支援の特徴】 ①親子で共に過ごす環境下で、親子双方へ支援を行う。
 ②親育てのための独自の教育プログラムを持つ。

A機関支援概要



- アウトカム ①子どもの視点に立った養育行動が増える
 ②親肯定感が高まる ③親子の関係性の質が高まる
 ④親同士の関係性が深まる

親の継続利用を促す支援とは何か

【研究目的】

支援者から見て心配な親子（家庭）へ支援を行うためには、当該親子がある程度継続利用しなければ、有効な支援を行うのは難しい。そこで、一度利用したことのある親子が、継続利用するためには、利用者がどのような主観的体験を支援の場に対して抱くことが継続利用につながるのかを明らかにする。

方 法

【調査協力者】

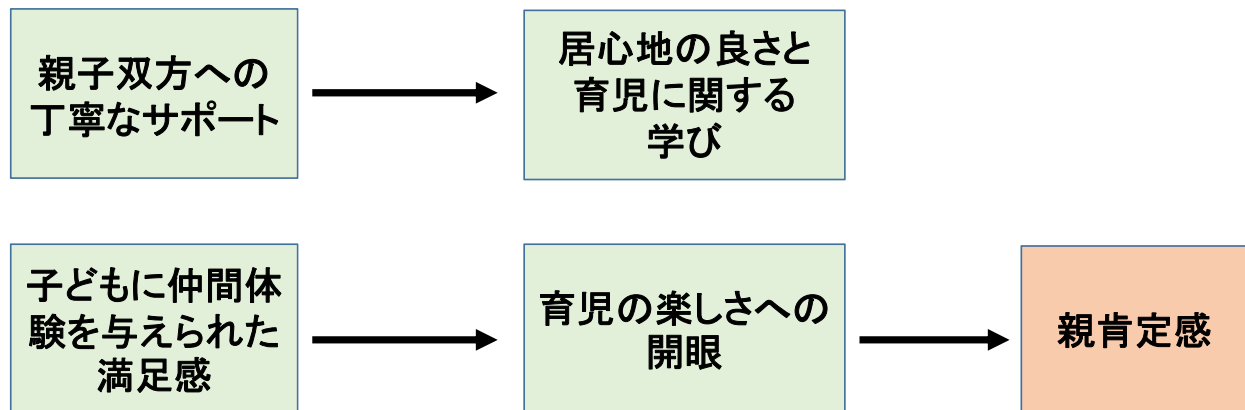
乳幼児の母親に対し、以下の①②への回答を1年間の利用後に依頼。

【調査内容】

- ①「子育て支援主観的体験尺度」（4つの下位尺度からなる20項目4段階評定）
- ＜居心地の良さと育児に関する学び＞
 - ＜支援者による親子双方への丁寧なサポート＞
 - ＜育児の楽しさへの開眼＞
 - ＜子どもに仲間体験を与えられた満足感＞
- ②「親肯定感尺度」（7項目4段階評定）

4つの親の主観的体験が、継続利用と関係があることが明らかになった。

継続利用を動機づける親の主観的体験に関する 分析結果（第1子目群）



まとめ

- ・継続利用において、支援者の丁寧なサポートが親子双方にあることは大変重要である。
 - ・継続利用において、子どもの保育という保育者の専門性が果たす役割は大きい。
- ⇒継続利用が難しい親子の利用を支えるためには、十分な支援力があることが重要（各親子の特性に合わせて、様々な支援の手を入れる必要あり）

A機関での支援では、親子に「半日常的体験文脈」（當眞，2016）を提供していたと考えられる。

研究4
保育士が行う「子育て支援」とは？

大阪樟蔭女子大学 児童教育学部 児童教育学科
西井典子

福祉系専門職の養成カリキュラムにおける理論から実践への流れ



- | | | |
|-------------------------------|-----------------|------------|
| 例1 社会福祉士 | | |
| ソーシャルワーク理論等 | ソーシャルワーク演習・実習指導 | ソーシャルワーク実習 |
| 例2 保育士 | | |
| 保育・養護理論等 | 保育実技・実習指導 | 保育実習 |
| 例3 子育て支援をテーマとした教育プログラム(文科省GP) | | |
| 子育て支援関連科目 | 子育て支援演習科目 | 子育て支援実践 |

保育士が行う子育て支援① — 「保育相談支援」の登場 —

保育士の専門性を生かした保護者支援の必要性から登場



 保育の知識と技術にSWなどの近接領域の知識・技術を組み合わせた
保護者支援 柏女霊峰ら(2009)は、26の保育相談支援技術を抽出

 「保育の日常性」に着目した保護者支援

 「保育の場」を生かした保護者支援



日常の保育の中の「何気ないちょっとした場面」で、
保育の知識・技術・場を生かしたタイミング良い支援。

保育士が行う子育て支援② — 「保育学からの親子支援」 —

土谷みち子(2005)・土谷みち子・太田光洋編著『「気になる」からはじめる臨床保育』フレーベル館、pp23-26

 子どもの行動を親と共有することでの相談活動。

子どもの行動を見る視線・子どものいる空間・子どもの行動の意味の共有
➡ 協働体制の構築・一緒に担っているのだという感覚

 親の横に位置する「共有カンファレンス」

➡ 傍で守られている安心感



親と保育士の関係の基本的あり方・保護者支援の基本的姿勢

施設保育士の観点からの2つの疑問

- Q1 保育士が行う「子育て支援」は親子共にいる場面で特にその専門性が発揮されるようである。
児童養護施設等日々の生活を親子別々に過ごしている場合の保育士の「子育て支援」とは？ 面会場面だけに限られるのか？ 施設が実施する地域子育て支援の場での実践になるのか？
- Q2 入所施設の場合、親・家族の支援には、FSWや児童福祉司等施設内外の他職種が関わっている。その中での保育士の役割とは？

施設保育士の観点からの2つの疑問に対する解答

土谷みち子(2005)・土谷みち子・太田光洋編著『「気になる」からはじめる臨床保育』フレーベル館、pp23-26



子どもの行動に働きかけて親との相互作用に返す。

例) 子どものマイナス面ばかりに目がいき、いつも怒っている親。

➡ 保育の中で子どものプラス面を親に見える形で引き出す。 ➡ 親の笑顔。子どもの笑顔。



- A 面会場面等親子共にいる場面を活用する以外に、日頃の生活支援を子育て支援につなげていくことができる。

そして、このようなアプローチができるのは、子どもの生活に最も密着している保育士であり、そこにFSW等他職種のアプローチとの違いも出てくる。

施設保育士の観点からのもう1つの疑問

Q3 今論じられている子育て支援、親子支援・家族支援は、親子・家族が現実に関りを持ち続けている、ということが前提。

親(家族)が行方不明・音信不通・死亡という状況にあり、共に暮らすことはもちろん、関係維持すらできない子どもたちがいるのが現実。

このような子どもたちに対して保育士は何ができるのか？

施設保育士の観点からのもう1つの疑問への解答

A2 親(家族)が行方不明等の子ども達にも、実の親(家族)との関係についての何らかの支援は必要。

「…前略…(児童は) できる限りその父母を知りかつその父母によって養育される権利を有する。」(子どもの権利条約第7条第1項)



ライフストーリーワーク

ライフストーリーワークは、子どもが実親を知るためだけのものではなく、自分の歩みを辿るもの。その過程で、自分がいかに多くの人に愛され、大切に育まれてきたかを知ることは、子どもにとって「生きる力」となる。



子どもの育ちに深く関わる保育士の存在は重要。

最後の話は「子育て支援」の範疇か？という
さらなる疑問もあるのですが・・・

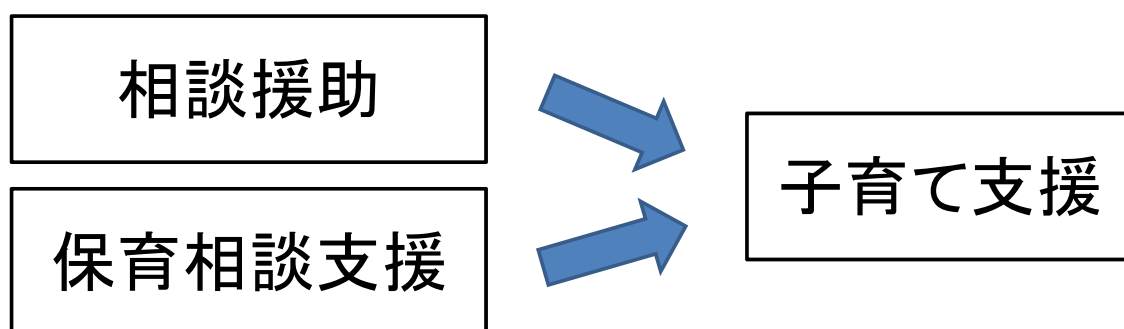
ご清聴ありがとうございました



⑤新しい生活様式における 「演習科目：子育て支援」

関西福祉科学大学
新川泰弘

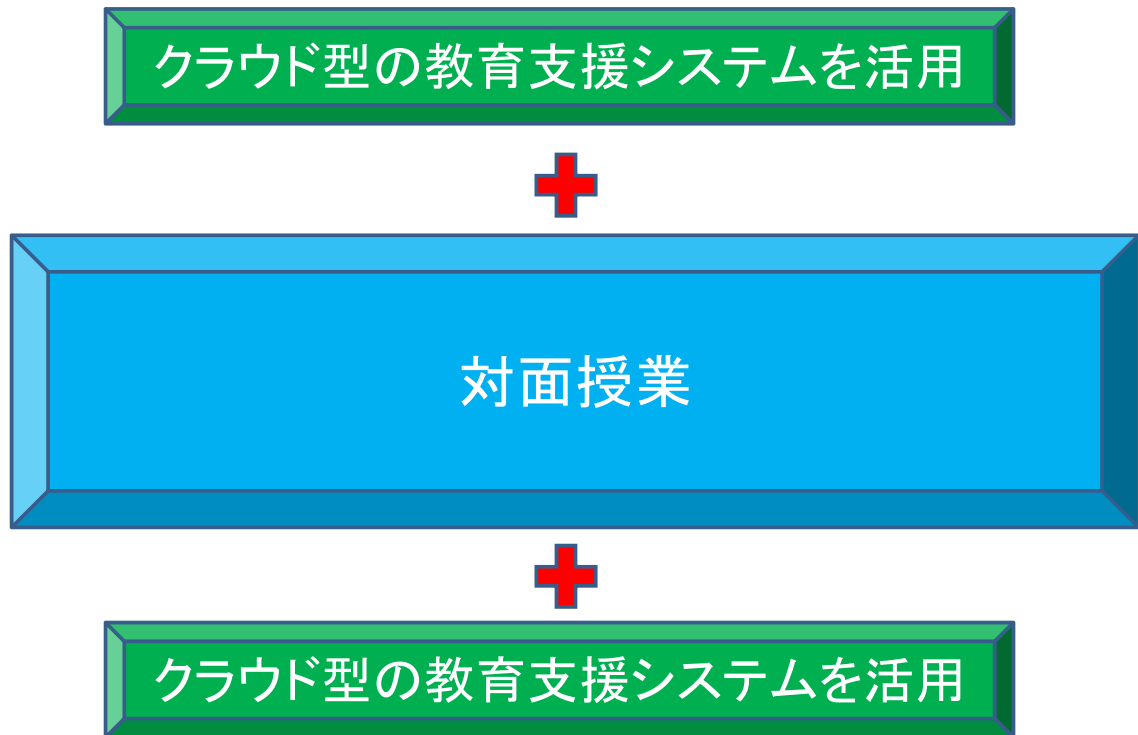
演習科目 「子育て支援」について



近接領域の科目

- 子ども家庭支援論
- 子ども家庭支援の心理学
- 子ども家庭福祉

新しい生活様式における授業の試み 事例1



クラウド型の教育支援サービスとテキストを用いた授業の3ステップ

ステップ1

- クラウド型の教育支援サービスへの演習課題の提出(授業前々日締め切り)

ステップ2

- 対面授業(原則)

ステップ3

- クラウド型の教育支援サービスへの復習課題の提出(次回の授業の前々日締め切り)

事例1

ステップ1

- ・ クラウド型の教育支援サービスへの演習課題の提出
(授業前々日締め切り)

テキスト

才村純ほか編著(2019)『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房.

例えば、第8章「子育て支援におけるソーシャルワーク」の下記<演習問題1～3>のうち1つを選択してマナバにレポートを提出(平均400字～800字程度)

1. 保育所で行われている子育て支援について、ポイントを挙げてみよう。
2. 保育士がソーシャルワークを学ぶ必要性について、説明しよう。
3. ペコラらによる子ども家庭中心アプローチについて、まとめてみよう。

事例1

ステップ2

対面授業(原則)

- ・ ステップ1の「クラウド型の教育支援サービスへの演習課題の提出(授業前々日締め切り)」の提出状況を把握した上で、

例えば、第8章「子育て支援におけるソーシャルワーク」

下記<演習問題1～3>のうちどれに学生が高い関心を持っているか把握した上で、双方向型の授業を実施

1. 保育所で行われている子育て支援について、ポイントを挙げてみよう。
2. 保育士がソーシャルワークを学ぶ必要性について、説明しよう。
3. ペコラらによる子ども家庭中心アプローチについて、まとめてみよう。

事例1

ステップ3

- クラウド型の教育支援サービスへの復習課題の提出(次回の授業の前々日締め切り)

例えば、第8章「子育て支援におけるソーシャルワーク」を受講して学んだことをマナバにレポート提出(平均400字～800字程度)

＜テーマ＞「新しい生活様式における保育士養成－演習科目「子育て支援」を中心に－」

講演 6

⑥コロナ禍における講義の実際と、理論に基づいた「子育て支援」の演習

びわこ学院大学教育福祉学部

榎本 祐子

講演 6 「演習科目：子育て支援」で重要視している点

【保育の内容・方法に関する科目】

＜教科目名＞ 子育て支援（演習・1単位）

＜目標＞

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

＜内容＞

1. 保育士の行う子育て支援の特性
 - (1) 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - (2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
 - (3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
 - (4) 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
2. 保育士の行う子育て支援の展開
 - (1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握
 - (2) 支援の計画と環境の構成
 - (3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
 - (4) 職員間の連携・協働
 - (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3. 保育士の行う子育て支援と実際（内容・方法・技術）
 - (1) 保育所等における支援
 - (2) 地域の子育て家庭に対する支援
 - (3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
 - (4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
 - (5) 子ども虐待の予防と対応
 - (6) 要保護児童等の家庭に対する支援
 - (7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

（2019）指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について 子発0427第3号平成30年4月27日

「子育て支援」の講義で意識している点

★実践理論、実践モデル、実践マニュアルなどの「実践理論システム」（芝野，2002）などを講義に取り入れ、根拠のある具体的な実践ができる人材の育成をすること。

★実習では実際に親の支援を経験することは難しいので実習を補えるような内容に。

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部について

住所：滋賀県東近江市布施町29 創立：1933年

教育福祉学部

・ **子ども学科**（定員80名）・ **スポーツ教育学科**（定員40名）

短期大学部ライフデザイン学科

・ **児童学コース**（定員30名）・ **健康福祉コース**（定員30名）

・ **キャリアデザインコース**（定員20）



田舎にある小さな大学ということで、2020年度秋学期はほぼ全対面授業が実施できました。今年は「地方大学」、「小規模大学」の強みが生かされた1年でした。



- ☆滋賀県東近江市に位置する収容定員670人のとても小さな大学。
- ☆滋賀県で、小規模校ということもあり、滋賀県出身の学生が多い。
- ☆4年制も2年制も1学年約20～30人の保育士を養成。

コロナ禍での「子育て支援」の講義の実施について（オンライン）

Zoomで10～15分の動画を3本作成、GoogleDriveに保存。

授業前日に講義を受講している学生に向けてBIWAGAKU PORTALを通じて動画のURL（GoogleDrive）をお知らせ。（大学ルールで原則本来の授業時間に講義を受けることになっているが、お知らせ後、一定期間いつでも学べる）

Zoomの動画＋教科書＋プリント（BIWAGAKU PORTALから各自ダウンロード）

講義動画を見ながら授業に取り組む。

毎回200字程度の課題を時間割で配置されている授業時間終了の10分後までにBIWAGAKU PORTALを通じて提出。

コロナ禍での「子育て支援」の講義の実施について（オンライン）

教員がBIWAGAKU PORTALからコメントをチェック。提出された課題、授業に関する質問を反映した形で「コメント返し」と称した動画を作成（約15分）。2回目以降はコメント返し1動画＋あたらししく進む範囲2動画

これを繰り返していく・・・



動画配信のメリット

1. 学生が（教員も・・・）Zoomに慣れておらず、システムに入れた、入れなかった、Zoomが落ちたなどのトラブル対処で時間が過ぎることがない。
2. 動画配信であれば、各自環境の良い時に受講できる。また、自宅で個室がなくても受けやすい。

動画配信のデメリット

1. リアルタイムで討論したり、演習できない。

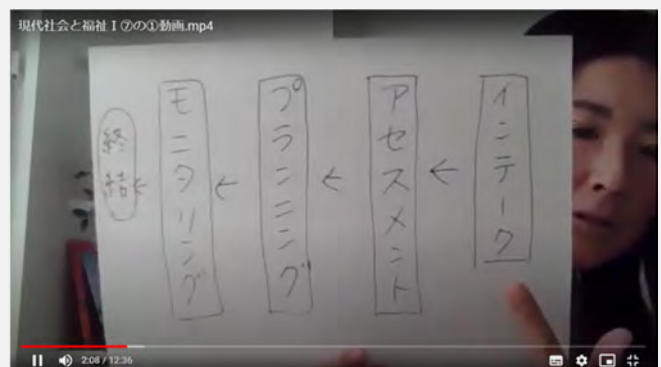
動画配信にした一番の理由は・・・教員の個人的な事情でした（保育園に子どもがいけなくなり、録画は週1の出勤日orお昼寝中or夜の子どもの就寝後にしてました・・・）。こういう個人的な理由で選択肢がなかった先生もたくさんおられたのでは・・・。

コロナ禍での「子育て支援」の講義の実施について（オンライン）



パワーポイントは使わず、白紙のA4用紙を手元に置き、Zoomで録画しながら講義と同じように紙に板書？して説明をしました。アナログですが、学生はわかりやすかったらしいです。

動画は基本的に「榎本が話している顔」がただただアップで映っているだけ・・・しかし、表情から読み取ることも重要と考えあえてこの方法を続けました。（笑顔で話していたつもりが、対面授業になったときに「もっと怖い先生だと思っていた」、「顔が怖かった。」と言われました。。）



コロナ禍での「子育て支援」の講義の実施について（対面）

- 大学のコロナ対策の指針に基づき、席を1つずつあける、授業前後に手指の消毒をする、マスクをつける、30分に1回は喚起をする（実際には常時喚起していることが多い）などを徹底。
- 本学ではコロナ対策をおこなった上で、秋学期からは通常に近い演習をおこなうことができた。（ロールプレイなど。）



- ・対面に戻って、改めて演習授業における「オンライン」の限界を感じた。
- ・とくに1年生は友人や先生の人となりがわかり、安心したよう。
- ・オンラインだとどうしてもシステムにのれずにうまく学べない学生もいた。
- ・教員としても個々の学生について理解した上で授業展開ができる。リアルタイムのオンライン授業でもこの点は限界があった。
- ・ギリギリまで寝ていられる、自分のペースで学べるなどを理由にオンラインのほうがよかったという学生もいた。

慣れないこともあり・・・オンライン授業の準備は相当大変で、対面のほうがラクでした。動画は1度作成したら繰り返し使える・・・という意見もありましたが、私の場合学生のコメント内容を反映させて授業動画を作っていく（学生のコメントに対して常に授業内で触れる）ので、溜め撮りも使いまわしもできない。

「子育て支援」の講義内容 連絡ノートの書き方の事例

- 1コマの授業の流れ

前回の授業のコメント返し 10分

理論的な学び（教科書から）30分

演習 40分

コメント（授業の感想と質問）の記入 10分



理論的な部分に関しては、関連科目の子ども家庭福祉、子ども家庭支援論で学んでいる。しかし、演習に入る前に理論に関することはおさらいしている。

「子育て支援」の講義内容 連絡ノートの書き方＜理論の説明＞



バイステックの7原則や柏女ら（2009）の「保育指導技術の体系化に関する研究」の「保育指導技術の類型と定義」の中から、連絡ノートで利用できる技術類型について説明。

演習の直前に学ぶからこそ、もしくは演習と並行して学ぶからこそ、理論が学生に響く。

「子育て支援」の講義内容 連絡ノートの書き方＜事例の提示＞



実際の連絡ノート（講義で使用するものの許可を得たもの）を学生にみてもらい、どのような技術が使われているかを考える。

実際の連絡ノートを見ることで、各先生の工夫が学び取れる。実習では個人情報保護の観点から連絡ノートを見せていただけないことも多い。

「子育て支援」の講義内容 連絡ノートの書き方＜演習の運び＞

課題1

昨日は2歳半健診に行ってきました。眠い時間だったことや初めての人を前にしたため、緊張したのか提示された課題は何もしませんでした・・。健診ではよくあることと言われましたが心配になりました。身長や体重など身体面は問題なかったです。よろしくお願いします。

課題2

最近まったくいうことを聞いてくれず、かえってからぐずることも多いので、よくないとわかっていてもイライラしてしまいます。びわ子のことをかわいいと思う余裕もないです。

課題3

びわ子がおうちで滋賀先生のこと大好きって言ってましたー♡先生ってかわいいですね、彼氏とかいるんですか??(^^) また先生と恋バナもしたいですー

課題4

(何も書いていない)

・まず、プリントに自分でコメントを書く。

・班で見せ合う。
・互いのよいところ、改善点について話し合う。

・どんな意見がでたか、私たちの班の失敗談について発表。



これはちょっと・・という失敗を大事にしています。例えば、課題1で「それは発達の手配があると思います」とコメントしてしまったり、課題4で「忙しくても何か書いてください」と書いてしまったり、があります。演習は学生の理解度を確認できる大事な授業です。「え?という答えを言ってくれたら、そこ、大切、ありがとう!」とその学生には伝え、学びを深めるチャンスにしています!

まとめにかえて

・講義では楽しく学べる雰囲気大切にしています。

(失敗できる雰囲気、そこから学べる!という雰囲気)

・また、私が親の立場(我が子はこども園の1歳児クラスと3歳児クラスでお世話になっています。)でもあることから、主に私の親としての失敗談と、その時に先生方がくださった援助のありがたさについて話すことを大切にしています(理論に興味をもってもらうための導入として)。

・課題として、今後さらに実践理論、実践モデル、実践マニュアルを用いた演習授業の展開を意識していきたい。

参考文献

芝野松次郎(2002)『社会福祉実践モデル開発の理論と実際——プロセティック・アプローチに基づく実践モデルのデザイン・アンド・ディベロップメント』有斐閣。

ご清聴ありがとうございました。 榎本祐子 連絡先emoto@newton.ac.jp

教育 3

新しい生活様式における 「演習科目：子育て支援」

東京家政大学
武田（六角）洋子



2020年度 前期授業方針について

- ・2020年度前期授業については、原則全てオンラインで行う。
- ・100分×14回授業（例年通り）は変更なし。
- ・**オンデマンド型**（動画を配信し、学生が各自学修する）、もしくは
リアルタイム配信型（オンライン会議システムを用いたリアルタイム授業）で実施。
* 資料課題提示型も可
- ・以前より導入済みの**クラウド型学修支援システム（manaba）**を全授業科目で活用。
- ・学生のPC整備状況、Wi-Fi環境が多様であることから、**リアルタイム配信型**で実施する場合には、学生の状況を確認し、学生に不利益が生じないようにすること。

2020年度前期の「子育て支援」実施方法

- manabaに講義資料と講義動画を掲載し、受講生が自分で視聴しながら学修出来るよう教材を作成（本学では、隔週で全7回）
- テキスト「子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門」
才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治 編著 ミネルヴァ書房
- 毎回の授業で講義動画を2～3本作成
- 受講と理解度を確認するためのアンケートを毎回実施（⇒適宜解説、コメント）
- 非対面でいかに学生のグループワークの機会を確保するかに苦心

- ① 事例などに関するワークシートに取り組む（事前学修）
- ② ①をmanabaに提出する
- ③ ②を受講生同士で閲覧しあい、コメントを付けあう
- ④ 事例などに関する教員の解説動画を見る
- （⑤ ①～④を踏まえ、事例からの学びをレポート提出）

②③④について、後期授業（別科目）では、③（グループワーク相当部分）、④（教員解説）をGoogleMeetを用いて行った。

「子育て支援」の授業でのねらい

●親側にも立って、事象を見る目を育てること

- ・親の心情や状況を親の立場から想像することは学生にとっては難しい。
- ・親の発達について復習する。
- ・良質の事例に多く触れ、これらを素材として支援について具体的に学ぶ。

●学生の持つ子育て支援への不安を軽減すること

- ・多様な援助のバリエーションを知り、それらを組み合わせて支援が行われていることを理解する（相談だけが支援ではないことを理解する）。
- ・経験の浅い「私」にもできることがあると感じる。
- ・保育の専門性に基づく支援方法を理解しながらも力みすぎないようにする（例：×助言せねば！）。
- ・子どもへの寄り添いを親にも応用するとよいことへの気づきを得る。

●学生の子育て支援への関心を高める

- ・環境を通じた支援, ドキュメンテーション, 連絡帳, お便り, 送迎時のやりとりなど子育て支援を学ぶ機会の実習の中でもたくさんあることを確認する。
- ・保育実習での観察ポイントについて理解する。
- ・実習での経験(1回目)を振り返り, 子育て支援に該当する部分を報告するとともに, 次回実習(2回目)での子育て支援に関する観察ポイントを明確にする。

参考文献（研究3, 教育3）

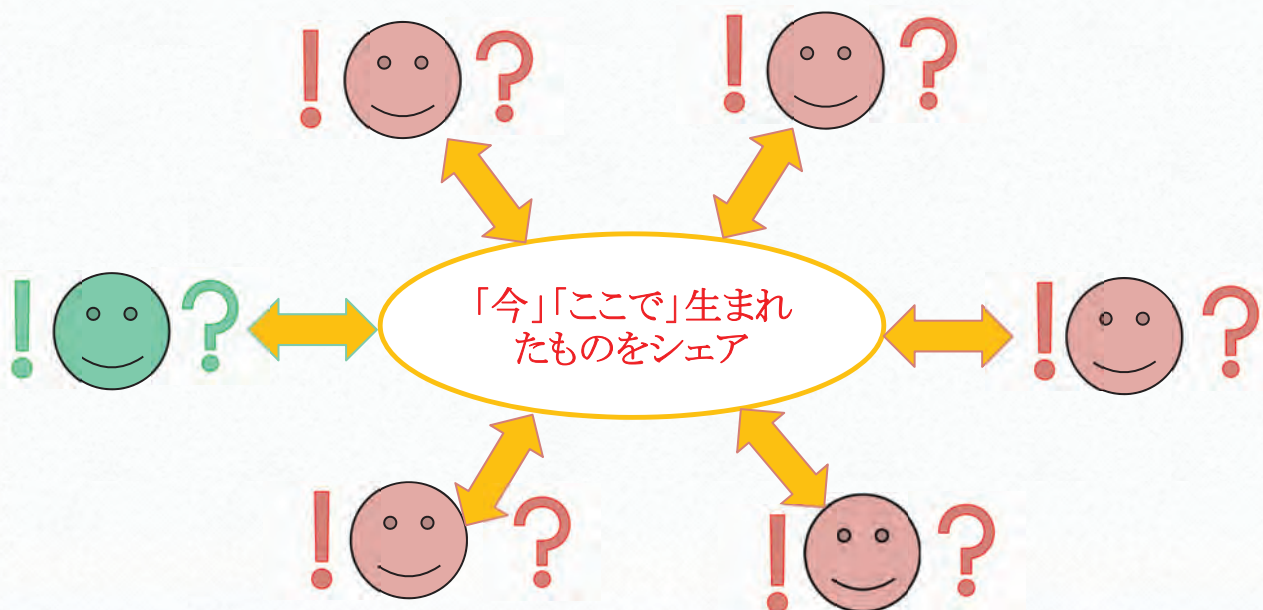
- ・才村純他(2019)『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房
- ・武田(六角)洋子(2017) 利用者への調査から見た地域子育て支援拠点における支援者の役割 心理臨床学研究, 35(2) 125-135
- ・武田(六角)洋子(2019) 子育て支援を理解する 尾崎司編著『教育・保育実習のデザイン-実感を伴う実習の学び』萌文書林 104-108
- ・當眞千賀子(2016) 田嶋心理臨床との対話が拓くもの「最も切実な声」に応え続ける姿に触れて 田嶋誠一編著『現実介入しつつ心に関わる』金剛出版 13-52

教育4

実践につながる演習をめざして —新しい授業方式の中での課題—

大阪樟蔭女子大学 児童教育学部 児童教育学科
西井典子

演習科目の基本 — 実践につなげるために —



課題 1



答えがはっきりしないとスッキリしない。「難しそう・・・」

答えは無数に有り得る。関係性・流れ・空気感で対応の仕方は変わる。“ことば”の使い方でもニュアンスが変わる。などなど。



演習のテーマをはっきりさせる。できるだけシンプルに。

同じ演習でも、切り込み方によって異なる学びが得られる。テーマを絞り切れていないと余計に“スッキリ感”が減少する。



基本的な考え方や姿勢をはっきりさせる。

答えを覚えるのではなく、対象に向き合う際の考え方や姿勢を身に付けることを目的とする。

☞ 研究4「保育士が行う子育て支援とは？」

課題 2 コロナ禍での諸問題



遠隔授業に実施に伴う様々な問題

ZOOM使用時におけるトラブル。多人数授業の場合、双方向と言えども学生の把握、対応が困難。質問も出にくく、一方通行になりがち。

課題配信型は、添付できる資料・映像等の量に制限がある。映像作成に多大な時間がかかる。



コロナ禍で苦しむ学生の姿

多くの課題に追われ圧倒されてしまっている。配信されてくる複数の連絡事項に混乱。自身もしくは家族の心身の健康状態の悪化。経済状況の悪化。対面授業がなくて意欲が喪失する学生。その反対の学生もいるが……。その他、様々な不安を抱えている。



今年度の対処 1 — 学生のやる気の継続・負担軽減のために —



manabaの「小テスト」を活用



問題の前後に解説 : どちらもできるだけ簡潔に。

問題の前 : これから取り上げるテーマの簡単な説明＝理論 ➡ 問題＝実際
前回・前問題との関連性の説明など。

問題の後 : 問題を考える上でのヒントとなるような解説。テキストのヒントになる箇所も示しておく。
発展的内容。



出題形式 1 : 選択肢問題(記号で解答)。☞ 取り組みやすい。対応の具体例が分かる。
穴埋め問題(テキストの重要箇所)。☞ 絶対読まなければならない。キーワードが
頭に残りやすい。

採点方法 1 : 自動採点(課題提出後すぐ)。☞ 解答後、すぐに答えが確認できる。

今年度の対処 2 — 理解度の確認・実践に結びつけるために —



manabaの「小テスト」を活用



問題の前後に解説 : どちらもできるだけ簡潔に。



出題形式 2 : 自由記述。☞ 解答内容から理解度が分かる。出題者側の問題点も分かる。
具体的な対応を考える機会にできる。

採点方法 2 : 手動採点。すぐに解答が確認できない。☞ 次回に解答例と解説を載せる。
前回の内容を思い出ししながら、
今回の内容に取り組むことになる。

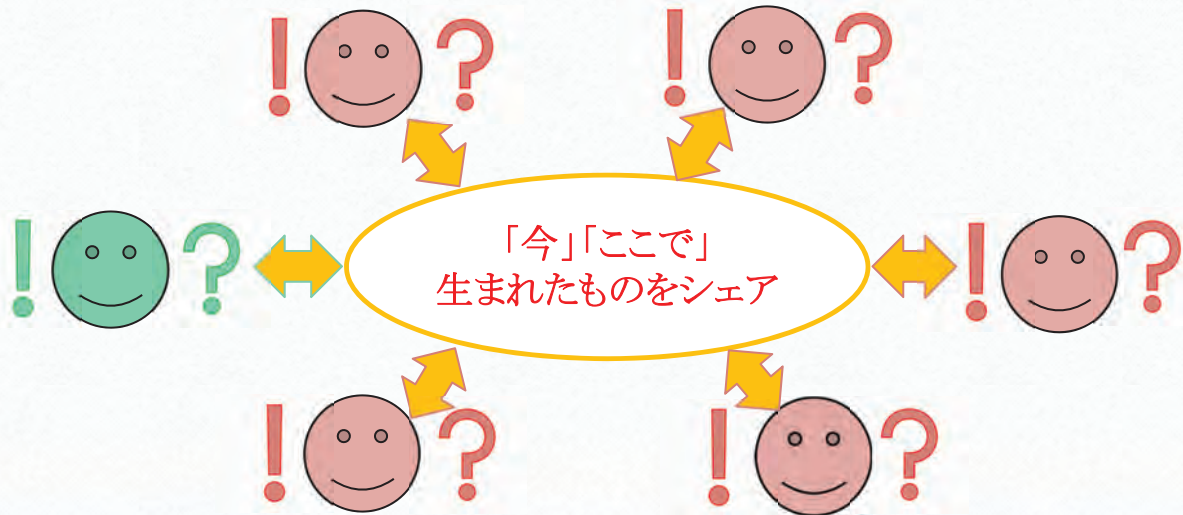


出題形式 3 : 選択肢＋自由記述(判断理由)。☞ 理解度、出題者側の問題点が分かる。

採点方法 3 : 自動採点 or 手動採点。☞ 次回に解答例と解説を載せる。

今後の課題

リアルタイムでの双方向のやりとりをいかに取り入れていくか？
—現場で対応できるのか？という学生の不安に応えるために—



ご清聴ありがとうございました

